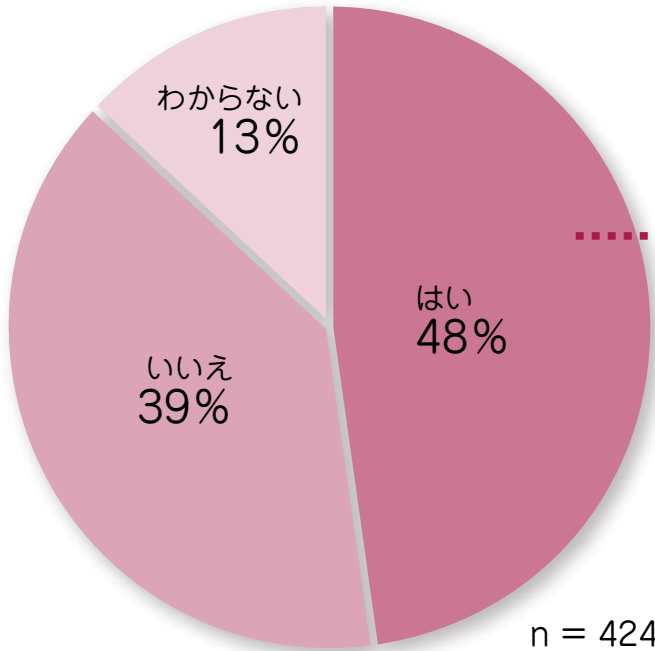


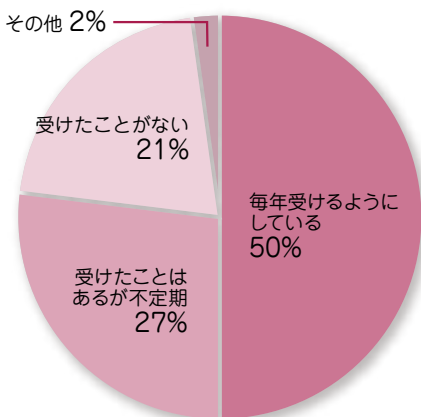
# Q. あなたは、インフルエンザにかかったことはありますか？



インフルエンザにかかったことがある人は48%でした。かかった回数は、約7割が「3回以下」でしたが、のこりの2割は「4回以上」、あるいは「数えきれないほど何度も」かかったと常習的な人もいました。また、肺炎などの合併症になったことがある人は12%いました。

糖尿病がある人はインフルエンザに気をつけなくてはならない理由として、84%が「ウイルスに感染しやすい」ことをご存知でしたが、「シックデイで糖尿病の急性合併症(高血糖など)を起こすことがある」こと

## Q. インフルエンザの予防接種を受けていますか？ (n=424)



をご存知の人は60%、「治癒に時間がかかる」は56%、「気管支炎、肺炎、脳炎などの合併症になることがある」は44%でした。

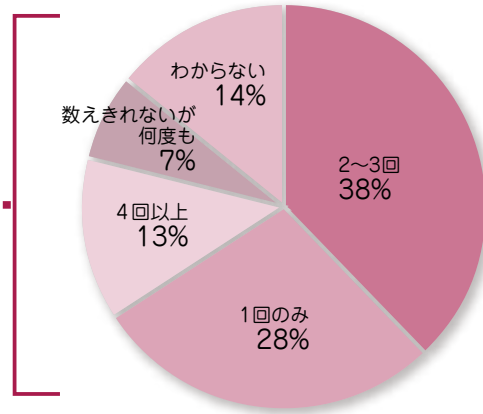
予防策として予防接種を「毎年受けている」人は全体で50%（1型患者さんの61%、2型患者さんの41%）でしたが、21%（1型の19%、2型の24%）は「受けたことがない」と答えています。

服薬指導については、SGLT2阻害薬を服用している方が169名おられました。シックデイ時の休薬の指導を75%が「受けていない」との回答でした。

## Q. インフルエンザに気をつけなくてはならない理由で知っていること (複数回答可 n=424)

- 免疫力低下でウイルスに感染しやすい ..... 84%
- シックデイで糖尿病の急性合併症(顕著な高血糖など)になることがある ..... 60%
- 治癒に時間がかかる ..... 56%
- 気管支炎、肺炎、脳炎などの合併症になることがある ..... 44%
- その他 ..... 3%

## Q. 今までに、何回くらいかかりましたか？ (n=216)



自由記述では、「糖尿病がインフルエンザにも影響することを初めて知って驚いた。具体的な対処法を教えてもらいたい」、「主治医は自宅から遠いので近所の医療機関に受診することになるが、1型糖尿病やインスリンポンプに対する知識がない医師が多く、薬剤調節など対処してもらえない」、など、予防や対処法などの情報を求める声がとても多く見られました。

### ●コメンテーター●

**鈴木吉彦** (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

冬を迎え、SGLT2阻害薬を服用する患者さんに口渇や頻尿を訴える人が増えてきました。口内乾燥状態が誘引となり風邪にかかりやすい状態になっているのではないかと懸念も出てきます。このような現象は当初予想していなかったもので、同剤服用で気道感染を引き起こしやすくなるかどうかについての見解はまだ出されていません。一方、インフルエンザ対策においては、高熱が持続した場合の血糖コントロールにインスリンを必要とするかどうかの判断が求められるケースがどのくらいあるのかなども関心事です。インフルエンザ流行期の新たな事象には注意を払っていくことが大切です。